

「家庭ごみ有料化制度（見直し素案）」についての市民意見公募
 において寄せられた意見の概要とそれに対する市の考え方

- (1) 募集期間 令和2年9月4日（金）～10月5日（月）
 (2) 意見提出者数 2人
 (3) 意見件数 2件

番号	意見の概要	市の考え方
1	<p>分別は大変で、分けるスペースの確保や分別にかかる時間が負担である。</p> <p>プラスチックなどを分ける場合、それを洗う水や時間的コストなど大きな視点で見ると、省エネルギーに貢献しているとは思えない。また、ペットボトルも外側のラベルを剥ぐというのは大変な手間である。</p> <p>しかも、ペットボトル、廃プラスチック、ビン類などは再利用するにはコストが見合わないと聞いた。紙類なども分別しすぎると燃えるごみが燃えなくて余分の燃料がいる本末転倒になっているのではないかと思う。</p> <p>他の県では分別に緩やかな方法をとっているところもある。もう少し分別に関して負担を減らす方法を考えていただきたい。</p>	<p>本市では、家庭ごみを細かく分別して排出していただいておりますが、ごみの減量とリサイクルが進むことで、ごみの焼却時における燃料等のごみ処理経費が抑制できるとともに、資源物の回収による収入を得ることができます。</p> <p>なお、適正なりサイクルのためには、定められた基準に沿った分別が必要となりますが、「汚れが落ちにくい資源プラ」は「燃やせるごみ」とするなど、負担となりすぎない分別区分にするとともに、ごみの分別についてわかりやすくまとめた「家庭ごみ分別事典」の全戸配布等を行っています。</p> <p>ごみの減量とリサイクルの推進のため、引き続き、市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。</p>
2	<p>高齢者世帯等に対するごみ出し支援については、意義のあることだと思うので、実現に向けて取組を進めてほしい。</p> <p>ただし、制度を利用しない人や利用できない人との不公平感が生まれないように、対象者の選び方や支援の方法、支援するためにかかる費用について、十分に検討してほしい。</p>	<p>高齢化が進む中、今後、ごみ出し支援に対するニーズが高まってくることが予想されるため、実態把握に努めるとともに、実施する場合の制度内容や収集体制の構築に向けての課題の整理を行うこととしています。</p>